

科目名	音 楽	学 年	1 年	コース	全選択	単位数	2	担当者	高 橋 倫 子
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	---------

1 目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

2 到達目標

曲種に応じた発声や、歌詞および曲想にふさわしい表現の工夫をする。
 様々な楽曲の鑑賞や、外国語による歌唱表現等を通じて、音楽文化の多様性を知る。
 ハップやミュージカル、音楽映画等を鑑賞し、様々な芸術様式や楽曲の時代背景を知る。
 音楽の力について考え、日常生活に音楽を生かす工夫をする。

3 成績評価の方法

定期考査、提出物、授業への出席状況や授業態度を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

音楽は人が作り、人が表現してきたものである。音楽を学ぶことは単に技能を習得することではない。歌う喜びや、聴く楽しさを教室で共に共有したいと考えている。また、楽曲にはその背景となる時代や社会がある。高校ではそのような視点をも持って幅広く音楽をとらえて欲しい。

芸術は自己表現である。しかし、他者との調和と融合でもある。合唱や、楽器を使ってのアンサンブルから、その難しさと楽しさを味わってもらいたい。

世界にはたくさんの民族音楽がある。それらの種類や特徴等についても考えてみよう。音楽療法という言葉を知っていますか。音楽には心理的な効果があることが確かめられています。音楽は今後、教育や医療と密接につながっていくことと思われます。音楽関係の大学進学を考えると、選択肢のひとつとなります。

5 使用教材

教科書「新高校生の音楽」(音楽之友社)

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []
 課 題

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4 ~ 5	校歌 季節の歌を歌おう ミュージカ映画「ウエストサイド物語」 ~	校歌を覚える 歌には四季があることを理解しつつ表現を工夫 ミュージカの鑑賞と時代背景を考える
1 学 期 期 末 考 査		
6 ~ 7	ミュージカ映画「ウエストサイド物語」 ドイツ歌曲「Heiden Roslein」 「トナイト」「マリア」「アメリカ」他	舞台芸術・ミュージカについて学び、楽しく鑑賞する。 初めてのドイツ語に親しむ ミュージカで歌われた曲を鑑賞し、表現を工夫して歌う。
1 学 期 期 末 考 査		
9 ~ 10	日本歌曲「赤とんぼ」「浜辺の歌」 ~ 10 ミュージカ映画「サント・オブ・ミュージック」 ~ ポピュラー音楽に親しもう 「いい日旅立ち」「秋桜」他	歌詞を味わいながら、日本の歌の美しい表現について考える 戦争と家族愛、人生における選択についても考える コードの仕組みを知る
2 学 期 期 末 考 査		
11 ~ 12	ミュージカ映画「サント・オブ・ミュージック」 「エテルワイズ」「サント・オブ・ミュージック」 クリスマスソングを歌おう 「聖夜」「もろびとこぞりて」他	ミュージカソングの表現を工夫する 行事と音楽について考える
2 学 期 期 末 考 査		
1 ~ 3	グループ別自由演奏	・ 曲目決め、楽器選び、アレンジ等、仲間としっかり話し合い、世界に一つの音楽を作る ・ 友達の演奏を聴き、感想を書く
学 年 末 考 査 (グループ自由演奏)		

科目名	美術 1	学年	1年	コース	全選択	単位数	2	担当者	西木 正
-----	------	----	----	-----	-----	-----	---	-----	------

1 目標

「感性」とは「よさや美しさなどの価値を感じ取る力」のことである。油彩画の表現や鑑賞の学習を通して美的体験を豊かにし、感性を高め生涯にわたり美術を学び楽しむことができるための基礎を養う。

2 到達目標

油彩画の表現技法や画材の特性を理解し絵を描く楽しさや喜びを味わう。

美術文化の、時代による変遷と国や風土などの相違による表現や文化の特色等について理解を深める。

油彩画による模写を通して、制作過程や表現の工夫などを追体験し理解を深め制作の背景にある作者の感動や夢、作品に込められた情熱や精神などを感じ取る。

3 成績評価の方法

提出作品などの他に作品の制作過程や意欲授業態度を総合的に評価する。

4 学習者へのメッセージ

水彩画を描いたとき下書きまではうまくいくのに、色を塗れば塗るほど自分の描きたいものから遠ざかっていった。そんな経験はありませんか？油絵を描くのは、殆どの方が初めてだと思います。油絵の具は、扱いにくい面があります。

しかし、いろいろな色を塗り重ねていくことにより味わい深い作品に仕上がっていく魅力的な画材です。ときには、思い切りよく絵の具を塗り重ね、あるときには絵の具を削り取って描き直す。そんなふうには失敗を恐れずにどんどん描いて欲しい。そして、自分がなにを描きたいのか追求して欲しいとおもいます。

2 みなさんは、どこかの美術館で絵画や彫刻などの作品をみたことがありますか。

そのとき、みなさんはどんなことを感じたのでしょうか？美術館に展示されているのだから、きっと良い絵にちがいないと思っていませんか？美術の授業では作品を制作することも大切だと考えますが、それと同じくらい美術作品をみて楽しむことができることも大切だと考えています。鑑賞学習を通して真に美しいものとはなにか探究していきましょう。

3 美術館に展示されている絵画の多くが油絵です。自分の好きな作品を選びゴッホが日本の美術に憧れマスを引き浮世絵を模写したように、油絵の具で模写に挑戦します。りんごに込められた画家の思い、空がうねっているわけ、画家が本当に見つめていたものは何だったのか？絵をただ見つめているだけでは感じることはできなかった何か発見があるはずです

5 使用教材

教科書「高校美術1」(日本文教出版)

副教材「油絵の具のセット、キャンバス等」

6 自己評価

1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。

到達目標 [] [] []

課題

A：十分、達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元（章，節など）	重点目標
4 ～ 5 ～ 7	デッサン 自画像（油絵，F 6号）	<p>しっかり自分を見つめて描く 自分に似ているかどうかにはこだわらず、特徴や雰囲気表現する。</p> <p>油絵の具の特徴や 扱い方を理解する。</p> <p>自由にのびのびと描く。</p>
夏休みの課題（人権啓発ポスターまたはレポート）		
9 ～ 11 ～ 12	<p>「美術のみかた」 ビデオ全10巻視聴</p> <p>模写（作品選び） （下絵）</p>	<p>日本と西洋の絵画の作品を中心に美術の歴史や表現の変遷や多様性を理解する。</p> <p>前に学習した画家やいろいろな作品の中から自分の好きな作品を選ぶ。 構図や色彩などを 忠実に模写するなかで画家が見つめていたものはなにか、描きたいものは何だったのかを探る。</p>
1 ～ 3	模写（油絵着彩）	画家の感動や夢、作品に込められた情熱や精神などを感じ取る。

科目名	書道	学年	1年	コース	全選択	単位数	2	担当者	原口栄子
<p>1 目 標 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。</p> <p>2 到達目標 用具・用材に関する知識や扱い方を身につける。 感興や意図に応じた表現の構想と工夫ができるようにする。 古典作品を鑑賞するとともに、基本的な点画や線質の表し方を習得し、書の美に対する感性を養う。</p> <p>3 成績評価の方法 毎時間目標を決め、その達成度により、作品を評価する。 ビデオ教材や展示作品の鑑賞態度、授業態度を総合的に評価する。</p> <p>4 学習者へのメッセージ 用具・用材について、書の美を表現する上で、その機能を十分に生かせるもの、特に筆については「漢字の書」「仮名の書」の表現に適したものを準備して欲しい。 学校祭に出品する作品作りにおいて、自己の意図に基づいた個性豊かな作品を作り、完成の喜びを味わって欲しい。 素晴らしい古典作品に触れ、臨書を通して、伝統に根ざした技法を習得し、普遍性に裏打ちされた自己の書がかかることを目指して欲しい。 書の文化や伝統を尊重し、豊かな感性を養い、生涯に渡って書を愛好しようとする意欲や態度を身につけて欲しい。</p> <p>5 使用教材 教科書「 書 」(光村図書)</p> <p>6 自己評価 1年間を振り返って到達目標を達成できたか、自己評価をして、今後の課題を明らかにしよう。 到達目標 [] [] [] 課 題</p>									

A：十分，達成できた。 B：だいたい達成できた。 C：努力が不足した。

7 年間授業計画

月	単元(章,節など)	重点目標
4	用具・用材について 用具点検	用具・用材の歴史、製法、性質、扱い方を知る。 書の表現に適した用具を準備する。
5	文房四宝概説 漢字仮名交じりの書 校是を書こう 漢字の書	産地、製法、種類などを理解する。 漢字と仮名の調和を考えて書く。 校是の意味を知り、感興に即した表現をする。
6	(1)楷書の古典 ・「孔子廟堂碑」から学ぶ	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。
7	・「九成宮醴泉銘」から学ぶ 学校祭出品作品作り	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。 創作による自己表現と作品完成の喜びを味わう。
9	漢字の書 (1)楷書の古典 ・「顔氏家廟碑」から学ぶ	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。
10	・「牛橛造像記」から学ぶ	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。
11	(2)行書の古典 ・「蘭亭序」から学ぶ	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。
12	・「風信帖」から学ぶ (3)漢字4字の創作	・作品を鑑賞し、書の美に対する感性を養うとともに、用筆、運筆、字形の特徴をつかみ、表現できるようにする。 古典の学習を生かし、好みの書風で仕上げる。
1	仮名の書 仮名の美、成立について	仮名の書の美しさと、変遷、特徴を理解する。
2	平仮名单体の練習 連綿の練習	字形を整えて伸びやかな線で書く。 連綿による流動美が表現できるようにする。
3	散らし書きの練習 色紙に書く	行間の取り方、墨継ぎの効果を理解する。 散らし書きの効果を考えて書く。

